



はばたきだより

第7号

2022.3

理事長挨拶

理事長 藤本 保



子どもたちの健康と幸せのために 〜児童心理治療施設に求められていること〜

児童心理治療施設とは、児童福祉法に定められた児童福祉施設で、心理的問題を抱え日常生活の多岐にわたり支障をきたしている子どもたちに、医療的な観点から生活支援を基盤とした心理治療を中心に、学校教育との緊密な連携による総合的な治療・支援を行う施設と定義されています。

この仕事に携わる私達がなすべきことは法によって示されており、それを如何に十分に果たすことができるかが問われているのです。しかし、残念なことに、一人一人の子どもに応じて子どもとその家族の問題解決に力を尽くしても、十分な成果を得ることは非常に困難を極めているというのが現状です。

我々は「子どもとその家族の健康と幸せ」を目標に掲げています。

子どもは成長と発達を続け、やがて自立します。子育てで最も重要なことは、子どもに思いやりの心を育み自立を促すことと言われます。そして思いやりの心は思いやりを受ければ受けるほど豊かに育つと言われています。私達が先ずするべきことは、子ども達に多くの思いやりを与え、安心な環境を提供し、お互いが信頼し合える関係を築くことです。

私達は今、思いやりをもって日々子ども達と一緒に生活し、子どもの最善の利益を念頭に、子どもとその家族への支援、活動をしていきます。このことは自信を持って言えます。ところが、子ども達はいろいろなことをしでかし、予想もつかぬことがたびたび起こります。そのたびにまだまだ経験が浅いスタッフたちは不安の中で対応し、迷いや悩みでいっぱいになります。挫折感に押しつぶされそうな場面もあるでしょう。もちろん、カンファレンスや外部の関係機関等との協議、種々の研修会等で研鑽を積んでいます。それでも多くの方々の助力と援助がなければ、できることは限られています。幸いなことに、児童相談所、地域の方々、種々の団体からご支援、ご指導を得ることによって、研鑽の結果は子ども達へ還元できています。

さて、現時点で「はばたき」に求められていることを再考してみましよう。現状、医師は精神科医、小児科医が精神面・身体面で医学的に対応しています。看護師が看護ケアと保健活動を担い、心理士が心理療法を担っています。児童指導員と保育士が生活全般を通じて発達支援と自立への訓練を行っています。そして、これらの支援や活動が有機的に機能するように事務職

員や調理員たちがサポートを担っています。最も求められていることはこれらの専門職の多職種協働、総合力なのです。

私は、職員採用時に「四つのお願ひ」をしています。一番目は「子どもとその家族のわがままを聞いてくたさう」。二番目は「みんな仲良く」。三番目は「しっかりと勉強して」。そして四番目は「決して辞めないで」です。

「わがまま」と感じるはその要求を受け入れがたいから。あなたがその要求を満たしてあげられなくても構いません。誰かその要求を満たしてあげることができない同僚に依頼すればよい、そのためには誰に依頼するべきかを判断し、依頼を引き受けてもらえるように、口頭から「仲良く」して同僚を良く知っておき、要求が叶うようにちゃんとできるヒトに繋いでください。いろいろな経験からいろいろなことを学びますが正しいかどうかの検証は必要です。科学的根拠に基づいているかどうか、正しい評価をするために「勉強して」おくことが必要です。我々は協働して子ども達のために努力しています。このようにして築いた総合力は貴方が欠けると弱くなり、我々の組織としての質の向上を止めてしまいます。研鑽を続けているあなたは子ども達と「ご家族の健康と幸せを叶えるための礎として存在する我々の仲間なのですから」辞めないで。「これが、四つのお願ひの意とする」といいます。

今後、あらゆる支援の質の向上を図るために前方視的に課題解決のための研究をすることが必要と考えています。引き続き皆様の変わらぬご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。



コロナ禍で変わったこと変わらないもの

愛育学園はばたき施設長 高塚 秀夫



二〇二二年も世界中が新型コロナウイルスに翻弄された年でした。八月の東京五輪パラリンピックは史上初の一年延期しかも無観客で開催され歴史に残る大会となりました。開催を巡り賛否はありましたが、オリパラを目標にしてきたアスリートにとっては記憶に残る大会になったと思います。

さて、コロナ禍での施設長就任以来二年が経過しようとしています。生活様式や「はばたき」での感染対策も随分と

変わりました。マスク、手指消毒、黙食、換気、ワクチン接種等あらゆる感染対策が日常となり年中どこでもマスク姿が当たり前前の生活に変わり、「はばたき」でも非接触体温計やアクリル板設置など感染対策は大きく変わりました。また特に変わったと思うのは使ったことのないZoomなどオンラインの活用です。会議や研修をはじめ子どもと家族との交流などでも使用し、とても効果的でこれまでの出張研修や交流などのあり方を改めて考えるきっかけにもなりました。ただ、直接顔を合わせての会話や飲食をしながらの情報交換、現地でのリアルな見学等はオンラインではかなわず、やはり人とのふれあいの多いコロナ禍前の日常は大切なものと感じます。

一方で、変わらないものもあります。コロナ禍で在宅勤務などの対策を国が呼びかける中、職員が子ども達と生活を共にする「はばたき」では呼応することは出来ません。密が避けられない場面も多い職場で感染対策に知恵を絞りながら職員の基本的な勤務体制は変わることはありませんでした。

また、生きづらさを抱え様々な課題に向き合い躓いては立ち上がり少しずつ成長する子ども達のマスク越しの笑顔や泣き顔も、子どもに寄り添いながら日々試行錯誤を重ね懸命に支援にあたる職員の情報熱や姿勢もコロナ禍前と変わらないものです。

ありがたいことに、ボランティアの方々のご協力も不変です。やむなく行事の縮小や中止もありましたが、コロナ禍でも何とか工夫し子どものためという熱い思いで様々なイベントや寄附のご協力をいただき感謝の気持ちで一杯です。

終わりに、「コロナ禍のこれまでとこれからを想いつつ、今後とも

- ① 児童の人権尊重
- ② 愛情に満ちた「真性」のある支援
- ③ 協働子育て

3つの基本理念のもと、安心して暮らす「はばたき基地」で総合環境療法（心理治療、生活支援、教育等）が一体となった治療を柱に多職種が連携しチーム一丸となって精一杯子ども達の支援にあたっていききたいと思えます。





安心・安全な学校づくり

敷戸小学校はばたき分校・植田東中学校はばたき分校

教頭 高橋 園恵



はばたき分校は「自分に自信を持ち、たくましく生

きぬく子どもの育成」を教育方針として、学園の先生方のご支援をいただきながら日々の教育活動を行っています。

分校に通う子どもたちは精神発達上深刻な遅れや偏りを持ち、学習への拒否感を強く持っています。分校の教員は、学園からの情報を元に、個々の子どもの学力やペースに応じたカリキュラムで学習を進めます。授業の中で成功体験・達成感を積み重ね、自尊心を高めようと、日々子どもも理解と特性に応じた指導力・授業力向上に分校一丸となって取り組んでいます。しかし、指導がうまくいかず子どもが不適応な状態になった時には、学園へ分

校支援をお願いしており、学園の先生方の専門的知見に支えられております。

特別支援学級の場合、子ども八人に対して一名の教員配置です。分校は自閉症・情緒学級の設定ではありますが、軽度の知的障害を持つ子や個別指導を必要とする子どもも多く、法定の教員数では対応できません。教員の加配や環境調整など、教育委員会の理解を得る必要があります。様々な場面で協議を重ね、子どもたちに安心・安全な学びの場を保障するため、働きかけを続けています。

児童心理治療施設の治療の一としての学校教育という難しい使命を遂行し、子どもたちが自分らしく羽ばたいていけるよう、これからも学園の先生方と手を携えて進んでまいります。

分 校 紹 介



ふれあい運動会



10月、本校の体育館で「ふれあい運動会」を実施しました。礼をし、丁寧な言葉でお願いをするなど日頃のSSTを意識した種目や、学園の先生方と一緒に参加する種目もあり、みんなで楽しく体を動かしました。子どもも大人も笑顔いっぱいの日でした。



授業風景



教室での学習の様子です。一人に1台ipadが配備され、毎日のように学習で活用しています。学習に苦手意識のある子どもたちにとって、多様な学びを保障する大事なツールです。文房具の一つのように自然に上手に使いこなしています。

新人職員紹介

児童指導員 森本 里菜

児童指導員として日々子どもと関わる中で、子どもとの信頼関係を築くことの難しさを実感しています。そのため、子どもとの関係構築のための一歩として、子どもの望み・希望を叶えることが挙げられると考えています。しかし、叶えることが不適切・不可能な望みもあるため、それらをどこまで受け入れて良いかの判断に日々悩まされています。他にも子どもの悩みや困りを一緒に考え、解決を目指すことも重要ですが、対応策の引き出しの少なさを痛感しています。

大変なことが多い毎日ですが、就職したての

頃と比べ、子どもが自分の話を聞く態度が変わっていた時や、些細なことではありますが子どもの困りを解決することができた時など、楽しさ・うれしさを感じる瞬間も多々あります。これからも子どもたちの成長に携わっていければと思っています。

趣味 バスケ

好きな食べ物 マドレーヌ

好きな音楽・アーティスト 関ジャニ∞・back number

心理療法担当職員 野内 早紀

私が子どもとの関わりで大切にしていることは、言葉だけで決めつけないことです。私がはばたきで働き始めて一年も経たない頃、ある子どもから関わりを拒否されたり、攻撃的な言葉を受けたりすることが続いていました。うまくコミュニケーションがとれず困っていた時に、他の先生方からこういう思いがあったのではないかという意見やアプローチの仕方をアドバイスしていただきました。アドバイスを受けて子どもと関わってみると、それまで見えていなかった行動や気持ちに気づくことができました。子ども

にも伝えたいことがなかなか伝わらず、自信をなくすころもありましたが、この経験があったことで自分の考え方を見直す機会にもなりました。

これからも子どもの言葉や行動の背景にある思いに気づけるように、丁寧に子どもと関わっていきたいです。

趣味 車の運転・自然の景色を見ること

好きな食べ物 くだもの・みかん

好きな音楽・アーティスト Hey!Say!JUMP

児童指導員 灘波 朋恵

私は、学生時代に一時保護所の児童指導補助員として勤めた経験から、児童福祉施設職員として働くことを志しました。その決定打となったのは、私が、ある児童に「女の子だし、身体を大切にしないと」と伝えたときに返ってきた言葉でした。「私のこと大切にしてくれるの?」。冗談めかした言い方でしたが、その言葉が出るに至った背景を考えると、形容し難い悔しさや悲しさを覚えました。子どもを大切に思う大人がいること、ひとりの存在が何物にも代えがたいことを、子どもたちに伝えたいと強く感じました。

この経験を基に、子どもを大切に思う気持ちを忘れないようにすることを胸に留めています。また、私が児童をととても大切に思っていることや、児童本人にも自分自身を大切にしてほしいことをできる限り伝えていけたらと考えています。

趣味 寝ること

好きな食べ物 オムライス・梨

好きな音楽・アーティスト GalileoGalilei・Mr.FanTastic

好きな言葉 袖振り合うも他生の縁

委員会活動



学習・業務改善委員会



学習委員会は、施設内における児童への学習支援と図書活動を担当しています。さらに令和3年度からは、職員の業務改善に向けた取り組みを中心となって担う役割が新たに加わり、学習・業務改善委員会となりました。当委員会の主たる取り組みは、夏休み等における補充学習、読書活動の実施、毎週末の図書室開放、業務上必要となる改善点の検討・対策および対応の実施などです。写真は、冬休みに読書時間を設定し、男子ユニットで児童が読書をしている様子です。



研修委員会



研修委員会では、園内研修と復命研修の日程調整と資料の管理を行っています。園内研修では、年度末に職員全体にアンケートを取って内容を決めています。また、配布される各種研修資料をPDFデータとして管理し、職員がいつでも閲覧できるようにしています。



保健・給食委員会

令和3年度は「入所児童の食事マナーアップ」に重点をおいた活動を行いました。

休日の昼食時間に各ユニットにて、食事の正しい姿勢、茶碗や箸の持ち方、きれいな食べ方などの話をするとともに、みんなで楽しく気持ちよく食べるための大切なマナーについても繰り返し説明をしました。また、大豆を使って箸の使い方の練習もしました。

その後は、姿勢よく食べることが少しずつ身につきはじめ、外食時にも役立ったとの声も職員からあがりました。

まだまだ完璧ではありませんが、少しずつ正しいマナーを身につけて欲しいと願いながら今後も活動していこうと思っています。



防災・環境整備委員会

防災・環境整備委員会では、年間を通して、災害時の児童の安全の確保のため、月に1回の避難訓練を実施しています。事前に避難訓練実施の告知をしてから行うのですが、避難の放送が鳴ると静かにアナウンスを聞き、迅速に行動する姿が見られています。こうした取り組みを通して、災害時の行動について少しでも児童が考える機会になればと考えています。



の年間行事

はばたきバイキング



みんなで楽しくバイキング♪

おもしろい格好の子どもがいっぱい!

ピザ作り



ピザ作りに挑戦しました!

キッチンカー



はばたきにクレープのキッチンカーが来ました!



BBQ



みんなで美味しいお肉を食べました!

ハロウィン



はばたきオリンピック



目指せ優勝!

カルタ大会



みんな真剣です!

令和3年度

はばたき

クリスマス会

はばたきの一大イベント!子どもたちの催し物がとても盛り上がりました。





寄付・ボランティアへのご協力 ありがとうございました!!



本年度、寄付金・寄贈品・ボランティア等にご協力下さいました皆様をご紹介致します。 [順不同・敬称略]

音楽ボランティア

- 生田 純子 ● 田口 千里 ● 中村 慎吾 ● 中村 圭志 ● 玉井 鉄兵 ● 阿部亜紀子

その他ボランティア

- 佐古 健二(美容室gic代表) ● 前原 彩(生活支援ボランティア) ● SUNRISE CAFÉ

寄付

- 大分県社会福祉協議会 ● 大分県農業共済組合 ● 大分銀行労働組合 ● 株式会社 SYSKEN
- 大分1985ロータリークラブ ● むぎの会(NPO法人) ● 九州納豆組合 ● NHK歳末助け合い募金 ● はばたき分校
- 宮之原 英樹 ● 山本 浩二(前施設長) ● 後藤 友美(はばたき分校)ほか

編集後記 ~「まんぼう」の大切さ~

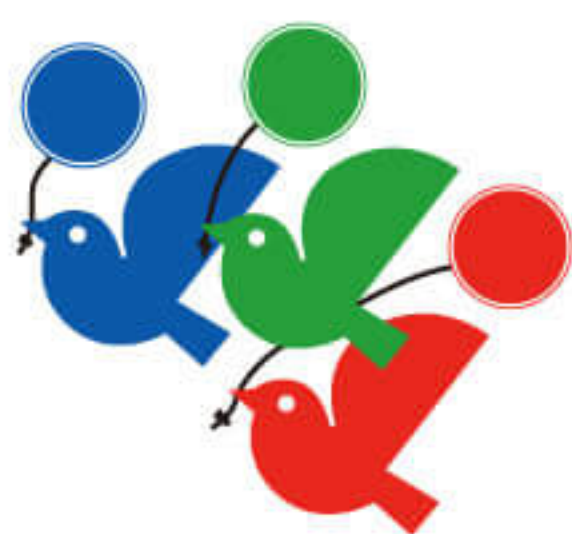
依然として新型コロナウイルスの感染状況は全国的に著しく拡大しており、私たちの生活の多岐にわたり自粛や制限が緊要な現状です。大分県においては新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「まん延防止等重点措置」が適用されました。「まんぼう」というフレーズを毎日見聞きするようになりましたが、今、私たちに必要な「まんぼう」は「まん延防止」の一つだけなのでしょう。手洗い、消毒、換気、マスクの正しい着用など基本の徹底を怠らない、すなわち「怠慢のない感染予防」に加え、黙食、ソーシャルディスタンスの確保などできることは何でもやる「満足しない防御手段」の意識は大事でしょう。私たちはつい、日々の感染報道に一喜一憂し、時には他人事に思ってしまうこともあります。こんな時だからこそ「漫然と傍観しない」姿勢は大切であり、この世界的な未曾有の事態は「万一にも忘却してはならない」歴史です。一人ひとりの努力が欠ければ「我慢の防戦一方」(=負の「まんぼう」)が続くだけです。子どもたちの明るい

未来を守るために——今こそ「万人の希望」を胸に力を合わせて脅威の感染症に立ち向かい、私たち大人が子どもたちにとっての「我慢の堤防」としての役割を果たす時ではないでしょうか。

さて、今春も『はばたきだより』を発行することができました。原稿執筆依頼を快くお受けくださった理事長先生をはじめとする関係者の皆様、校正作業やレイアウトの打ち合わせから発行まで綿密かつ多大なご協力をいただいた株式会社ひまわり様、郵送や設置など最後まで関わってくださった皆様、そして拙稿な本号をお読みくださっている皆様に最大の感謝を心より申し上げます。

日頃多くの方に愛育学園はばたきをご支援いただいております。一方でまだまだ至らぬことが多い私共ではありますが、今後も求められる児童心理治療施設としての役割を果たしていけるよう、職員一同、惜しみなく努めて参る所存です。これからもよろしくお願ひ致します。

はばたき広報委員 川村 涼太郎



社会福祉法人藤本愛育会

大分こども心理療育センター **愛育学園はばたき**

〒870-0948 大分県大分市芳河原台11番29号

TEL (097)578-7755 FAX (097)578-7756

<http://www.oita-kodomo.net/habataki/>